日本共産党青森県議会議員
安藤はるみの

新・アジサイだより

5／14　街頭議会報告行う
～駅前、さくら野前、生協和徳店前～

5月20日
～総務企画委員会で質問～

●青森県庁の女性管理職の割合全国最低！
目標値（２０２６年）８％に対し現在６％。取り組みの加速を求める

鳥取県庁が２４．４％　東北トップの山形県庁が１５．２％。政府の掲げる目標は２０２０年代の可能な限り早期に30％です。世界で一番高いのがフィリピンの４３．４％、次いでアメリカが４３．４％です。目標値引き上げと青森県における今後の女性管理職の割合向上に向けた取り組みを求めました。

●男性職員の育児休業の取得率青森県では２９．８％。目標値１５％を上回っているが、育児休業に係る国の制度改正の周知とさらに取りやすくする職場の環境改善を求める

※２０２２年４月１日から「男性育休」が段階的に施行され、男性の育児休業取得を促進するため、産後パパ育休（出生児育児休業を２０２２年１０月１日から、これまでの子どもが１歳までとする育休制度とは別に、出生後８週間以内に４週間まで育児休業を取得できる）が創設された。

●死者５万人予測の「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」を踏まえた市町村の防災対策強化を

※青森県は、国による日本海溝・千島海溝沿いの今後の防災対策に繋げていくことを求めました。

また、原子力災害との複合災害予測については、今回の調査には全く反映されておらず問題だと指摘しました。

他に●六ケ所再処理工場の新規制基準適合審査について●本県の人口減少の状況と対策についても取り上げましたが予測され、また、**津軽平野では液状化危険度が高い**予測となっています。弘前市の被害想定は建物被害２０００、死者数30人、避難者４１００人です。

安藤は市町村の津波ハザードマップの取組状況を問い、防災危機管理課長は「海岸線を有する22市町村で作成済。今回の津波想定を踏まえ見直されている」とし、さらに、今回の市町村別被害予測調査結果を市町村の今後の防災対策に繋げていくことを求めました。

5／21～22
十和田古道シンポジウムと現地見学会に参加

5／25～26
総務企画危機管理委員会で調査

三八地域県民局概要、三陸復興公園、蕪島神社周辺の地域振興、八戸市における津波防災の取組、県・八戸市協同の道路整備による地域振興、八戸市美術館を活用した街中のにぎわい創出、上北地域県民局概要、原子力センターの概要（写真・環境放射線測定のため牧草を乾燥する機械の前で）

ロずさむ　美空ひばりの　反戦歌

（はるみのワクワク川柳）

ほっとタイム

（沖縄戦）

5月15日沖縄県の日本復帰50周年を迎えました。それに先立ち沖縄県の玉城デニー知事は「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」を発表しました。その内容は復帰前年、屋良朝苗・琉球政府行政主席名でまとめられた「復帰措置に関する建議書」を踏まえ、当時県民が求めた「基地のない平和の島」の実現に取り組むよう日本政府に求めています。

私は、以前映画「白旗の少女琉子」の上映会に取り組んだことがあります。米軍の沖縄記録フィルムに、白旗をかかげて米軍に近づいていく6歳くらいの少女が映っており、そのあとから両手をあげてついてくる日本兵がみえ、その映像に衝撃を受けた二人の沖縄の作家がつむぎだした感動の絵本の映画化でした。私はこの取り組みの中で初めて沖縄戦のむごさを知りました。特に衝撃的だったのは壕に潜む日本兵がアメリカ兵に居場所を突き止められるのを恐れ、先に壕に逃げ込んでいた沖縄の人々に対し無理難題を突き付け泣き叫ぶ子どもを殺すよう命じ、母親は泣く泣く外に出て我が子を木に打ちつけて殺したというのです。

日本での唯一の地上戦となった沖縄戦で軍人、民間人合わせて23万人が戦死しました。「基地のない平和の島」を望むのは当然です。今計画に上っているアメリカが敵国から攻撃された時、日本が沖縄の島々から敵基地攻撃を発動させるなど絶対に許されません。ウクライナを初め世界中から戦争の悲劇を生み出してはならない。戦争か平和の選択の選挙が7月10日投票で戦われます。平和を願う1票が9条を守ります。

発行：安藤はるみ
事務所　弘前市宮川２丁目３－２　電話０１７２－３５－７０２１
10：00～15：00（土・日・祝日休み　留守電対応）
自宅０１７２－３５－２２７０
Eメール　ando-harumi@theia.ocn.ne.jp　ホームページアドレス　http：// ando-harumi.com/